

CISPR SC-I 東京会議 審議結果(案)

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1. 開会	2011年2月28日(月) 14:00~17:30		SC-I 議長が JPNC に謝意を述べ参加者に歓迎の意を表して開会した。次いで、JPNC を代表して山田電波環境課長が歓迎の挨拶を述べた。
2. 議事次第の確認	CISPR/I/356B/DA	確認する。	特に追加は無く、提案通り承認された。
3. 前回議事 録の確認	CISPR/I/ 353B/RM 2010年10月12日にシアトル(アメリカ)で開催された CISPR/I 会議議事録の確認	確認済みであり、コメントはない。	特に追加・変更等は無く、提案通り承認された。
3.1 前回の会合で提起されたアクション	以下のアクション項目の進捗が報告される。 1.議長と千代島委員は、ITU-R へのリエゾンのため、無線送信機からのエミッション測定に関する文書案を準備する。 2.議長は両宮委員と協力して無線機能付マルチメディア機器のエミッションに関する DC 文書案を準備する。 3.WG1 コンビナーはプラズマ TV からの 30 MHz 以下の放射妨害波に関する検討状況を次回の SC-I 会議に報告する。 4.WG3 は CISPR 22 のメンテナンス事項および CISPR 24 の試験法の修正(リターンパス、4%ステップ)の DC 文書を回付する。 5.議長は After market 車載機器のイミュニティ試験が SC-I のスコープに入るのか否かを CISPR/S に提起し、結果を報告する。 6.議長は I/357/CD と I/301/CD(いずれも PLT の CD)を IEC の Web から削除するための文書を用意し、IEC/CO へ送付する。 7.WG3 は CISPR/S の CAG グループが検討した CISPR 22 のメンテナンス事項を DC 文書として回付する。 8.ITU-T SG15 からの PLT の信号レベルに関する質問に対する回答(リエゾン)文書案を TF(リーダー: Detrez 委員)で準備する。 9.Almering 委員は二重絶縁問題に関する Q 文書案を準備する。 10.SC-I 議長は上記 Q 文書を他の SC へも回付可能か否か CISPR/S に確認する。	確認する。	進捗状況を確認した結果を以下に示す。 1.完了 2.完了 3.完了 4.完了 5.完了 6.継続 7.継続 8.完了 9.完了 10.完了

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
4. CISPR/I WG1, WG2, WG3, WG4, PLT-PT メンバーリストの確認		確認する。	WG で個々に確認することとし、次回会議から議事次第に記載しないこととなった。
5. CISPR/SC-I のスコープの見直し	CISPR/I/368/INF、CISPR/I/369/INF 下記の 2 点が審議される予定である。 ① 無線送信機のデジタル回路からのエミッション測定に関する検討が必要であることを述べた、ITU-R に対するリエゾン文書案(JPNC が起草) ② 無線機能付マルチメディア機器(MME)の妨害波測定法に関する NP 案(SC-I 議長が JPNC とのサポートを受けて起草)	①JPNC が起草しており、リエゾン文書案に対するコメントはない。また、提案文書を ITU-R にリエゾン文書として送付することに賛成する。 ②本件は昨年 10 月の SC-I シアトル会議における JPNC の提案に基づくアクションであり、NP 案は未着であるが基本的には賛成の方向で対応する。	SC-I シアトル会議に日本が提案した 2 件のコメントに関する提案文書(①:I/368/INF、②:I/369/INF)が承認された。その結果、①についてはそのまま ITU-R へ、②については DC 文書として CISPR/I に回付され、各国 NC の意見を聞くこととなった。
6. CISPR 32 の今後の進め方に関する決定	CISPR/I/333/CDV、CISPR/I/357/RVC CISPR/I/345/CD、CISPR/I/362/CC:① CISPR/I/346/CD、CISPR/I/364/CC:② CISPR/I/347/CD、CISPR/I/365/CC:③ CISPR/I/348/CD、CISPR/I/366/CC:④ CISPR/I/349/CD、CISPR/I/367/CC:⑤ 本議題では以下の 2 件が審議される。 (1) 下記の 5 件の CD 文書に対する各国からのコメント状況に関する審議 ①CISPR 32 第 1 版の修正:FAR を用いた妨害波測定の妨害波許容値と測定法 ②CISPR 32 第 1 版の修正:GHz-TEM セルと反射箱(RVC)を使用する場合の妨害波許容値と測定法に関する付則(情報)の追加 ③CISPR 32 第 1 版の修正:衛星放送受信の屋外ユニットに対する要求条件 ④CISPR 32 第 1 版の修正:様々なタイプのマルチメディア機器の妨害波測定配置に関する要求条件	(1)5 件の CD 文書についての審議はわが国から提出した各 CD 文書に対するコメントに基づいて対応する。 (2)各 CD 文書の CDV 化については以下により対応する。 ①I/345/CD:IEC 61000 4-22 との整合性を図るべきであり、提案のままの CDV 化には反対する。 ②I/346/CD:代替試験法とすることには反対する。本件は情報文書としての扱いではなく、TR として発行すべきであることを提案する。 ③I/347/CD:JP コメントが採択された場合には賛成する。 ④I/348/CD:JP コメントが採択された場合は賛成する。	(1)I/333/CDV について 2/3 の賛成で承認されたが、投票を間違えている国があり、このまま FDIS 投票に進めた場合、否決される可能性があることが判明した。そこで異例ではあるが反対投票をした NC の技術コメントを含めたエディティング作業を実施して FDIS を作成することを決定した。また、この修正により CDV と FDIS 間で差異が生じないことを確認するエディティングチームを SC-I の下に設置することが提案され、各国 NC の賛同を得て承認された。今後の予定は以下の通りである。 ①5 月:技術コメントの審議 ②6 月:エディティングチーム結成 ③6 月末:エディティングの終了 ④FDIS の準備投票の手続きにかける (2)5 件の CD 文書について ①今回の会議では 5 件の CD についての審議は行われなかった。 ②上記の 2nd CDV の結果に 5 件の CD の検討結果の追加は行わず、CISPR 32 の修正としての発行を目指すこととなった。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
	⑤CISPR 32 第 1 版の修正: 1 GHz 以上の放射妨害波測定に使用する AVE 検波器にはリニア型検波器を使用する記述の追加 (2) 各 CD 文書を CDV ステージへと進めるか否かに関する審議.	⑤I/349/CD: 賛成する。	
7. 大型プラズマ TV からの放射妨害波測定	CISPR/I/359/Q、CISPR/I/371/RQ、CISPR/I/320/INF、CISPR/I/328/DC、CISPR/I/342/INF (1) コンビナから、大型プラズマテレビからの低周波放射妨害波 WG1 での活動状況の報告が行われる。 (2) 昨年のシアトル会議で合意された 30 MHz 以下の放射妨害波の測定法に関する Q 文書に対する各国 NC の回答についての審議が行われ、その結果に基づき、今後の進め方が議論される。	(1) 報告については内容を確認する。 (2) 今後の進め方については、昨年のシアトル会議におけるわが国の対応を念頭に置き、Q 文書に対するわが国の対応に従って以下により対応する。 ① CISPR 11 で規定されている IH 調理器の 150 kHz - 30 MHz の放射許容値と測定法を採用できるかどうかについて。 ⇒ 採用に反対する。 【反対理由】暫定的に適用する測定法といえども、磁界成分と電界成分のどちらが支配的であるのか不明な妨害波の測定に、磁界成分を対象とした測定法を単純に適用するのは無理があり、さらなる検討が必要である。 ② 150 kHz - 30 MHz の放射妨害を測定するサイトの Validation 方法が明確となっておらず、本件についての検討を SC-A に依頼し、明確化を図ってもらう必要がある。	(1) I/359/Q 文書に対する回答結果は、賛成: 12 カ国、反対: 10 カ国、棄権: 4 カ国であった。なお、イタリアが、賛成から棄権に変更した。 (2) WG1 は本件の検討を継続し、本年 10 月のソウル会議に向けて CD を準備する。 (3) 本案件は、CISPR 32 の FDIS が承認されたらその修正として、承認されなかったら CISPR 13 の修正としての発行を目指すこととなった。

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
		③電界成分が支配的な EUT に適用する 150 kHz – 30 MHz の放射妨害波許容値については、SC-H に検討を依頼し、明確化を図ってもらう必要がある。	
8. CISPR 22 第 6.0 版および CISPR 24 第 2.版のメンテナンス			
8.1 CISPR 24 RR の承認	CISPR/I/361/DC、CISPR/I/378/INF、Draft CISPR 24/RR 昨年のシアトル会議で審議され合意された以下の 3 件についての扱いを提案した DC 文書についての審議が予定されている。なお、本 DC の審議結果を受けて RR 案が報告される予定である。 (1) 通信装置の伝導および放射イミュニティ試験におけるリターンパスの試験法および性能判定基準の追加。 (2) 伝導および放射イミュニティ試験における試験周波数の 4%ステップ試験法。 (3) xDSL の試験配置のアップデート	I/361/DC文書に対するわが国の回答に従って対応する。 RR案が提案された場合は、報告を聞き、状況をみて対応する。	I/361/DC に対する各国 NC コメントは CISPR/I 東京会議の直前に締め切られたため、審議は行われなかった。そこで SC-I 議長が各国コメントに対する対応を検討し、その結果を WG3 に提供することとなった。
8.2 CISPR 22 RR の承認	CISPR/I/358/DC、CISPR/I/372/INF、Draft CISPR 22/RR CISPR 22 のメンテナンス(A/I-JTF での検討結果に基づき CISPR 22 に記述されている汎用的な測定法を CISPR 16 シリーズに移設する提案)に関し、CISPR/CAG で取りまとめられたレビュー結果については、WG3 で議論を行い、DC 文書を発行することとなっている。今回は昨年の I/WG3 シアトル会議およびその後の SC-I マネージメントチーム内で意見照会を行った結果も含めて RR 案が報告される予定である。	I/358/DC文書に対するわが国の回答に従って対応する。 RR 案が提案された場合は、報告を聞き、状況をみて対応する。	(1)メンテナンス事項とするか否かについての審議結果を以下に示す。 1.参照文書を最新版へ更新する。:合意 2.該当規格を相互参照し、現在の CISPR 16 の当該部分を置き換える。:合意 3.CISPR 16-4-2に従って、測定不確かさの要求(許容値への適合性判定も含む)を完全に適用する。:合意 4.共通規格の機器分類(例:居住、商業、軽工業、重工業地区)に整合化し、クラスA機器の警告ラベル貼付を削除:否決 5.通信ポート伝導妨害波測定から C.1.1 に記載されているCDN使用を除外:合意 6.Non-invasive 測定法の適用を ISN が使用できない場合に制限:合意

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
			7.共通規格の規格構成に合わせる。:否決 8.適用範囲と目的の記述を分かり易い文章に修正:合意 9.7.2.4項、9.1項、9.5.1項および10.1項に記述がある”in case of dispute”文章の削除または再検討:合意 10.C.2項に規定されている試験法の適用と選択について再検討する。:合意 11.ISN と組み合わせてコモンモード電流を測定する方法の削除に関係する問題の解決方法の検討と結果の導入:合意 12.CISPR 22 第 6.0 版 10.3.1 の「or for other reasons」の明確化:合意 (2)WG3 は本件に関する RR を準備する。 (3)CISPR 32 の FDIS が承認された場合は本メンテナンス作業は開始せず、CISPR 32 の FDIS が否決された場合は本メンテナンス作業を開始する。
9. LTE に関する課題の進捗状況	CISPR/I/355/DC、CISPR/I/373/INF 昨年 SC-I シアトル会議では、LTE と CATV 間での使用周波数のオーバーラップに起因して発生する EMI リスク評価に関して、EN 55020 に追加された要求条件に基づいて CISPR 20 を修正する件が紹介され議論された。結論として、欧州での改訂が完了した後、CISPR 35 で検討することとなり、今回は欧州での審議の進捗状況が報告される。	報告を聞く。	本件に関しては WG4 で検討することとなった。
10. SC/I の作業計画の確認	CISPR/I/363/PW	確認する。	(1)作業計画について確認された。 (2)各 WG の当面の会議開催予定等が確認された。 ①WG1-TF:5 月に Meeting を開催予定 ②WG2:5 月に Meeting を開催予定 ③WG3:ソウル会議前の開催予定なし ④WG4:2011 年 4 月に CD を発行予定

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
11. その他の議題	CISPR/I/360/INF (1) ITU-T SG15 からのリエゾン文書に対する回答 本件は、ITU-T SG15 から PSD レベルと妨害波の関係についての質問であり、昨年の SC-I シアトル会議で結成されたタスクフォース(リーダー:Detrez 委員)が検討し準備した回答草案が報告される。	(1) 報告を聞き、内容を確認する。(本タスクフォースには JPNC メンバも参加し、回答草案の作成に寄与してきている。) その他の議題が提案された場合は状況をみて対応する。	(1)ITU-T SG15 への回答案として提案された I/360/INF が確認・承認され、リエゾン文書として送付されることとなった。 (2)2011 年 10 月に韓国ソウルで開催される会議のスケジュールが下記のように確認された。 ①10 月 17 日(月):WG4 ②10 月 18 日(火):SC-I ③10 月 19 日(水)AM:WG1 ④10 月 19 日(水)PM:WG3 なお、WG4 コンビーナより、CISPR ソウル会議において、さらに1日間の WG4 を追加開催したいとの要請があり、SC-I 議長が韓国 NC に問い合わせることとなった。
12. 次回会議の予定	2011 年 10 月に韓国で開催される詳細スケジュールが報告される。	報告を聞く。	2011 年 10 月 18 日(火)に韓国(ソウル)で開催する。
13. 閉会	議長が日本国内委員会と各国・各機関からの出席者に感謝の意を表して閉会。		SC-I 議長が日本 NC と会議出席者に謝意を述べて閉会した。